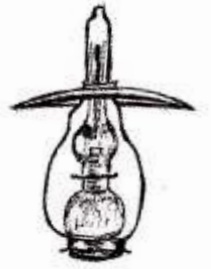


LUCERNO



(Bulteno de la Japana Sekcio de ILEI) n-ro 12 aprilo 2016

La 5-a ILEI-Seminario en Orienta Azio (ISOA)

Finfine Arko, la estro de ĉina sekcio de ILEI interkonsentis kun la prezidanto de LKK de la 8-a Azia Kongreso, ke la 5-a ISOA okazu kadre de la Azia Kongreso kiel UNU evento. Sub aparta kondiĉo en Ĉinio, ni akceptis la decidon kaj kunlaboros, por ke nia ISOA estu fruktoplana, partopreninda evento.

Ni ankoraŭ ne havas detalan informon eĉ pri Azia Kongreso, tamen la aranĝo okazos en la urbo Quanzhou, Fujian-provinco, Ĉinio. La kongresejo/seminariejo estas Quanzhou Overseas Chinese Hotel, kaj ni loĝos tie dum la tuta aranĝo.

Jen provizora programero de Azia Kongreso kaj ISOA:

- 03.11 ĵaude antaŭtagmeze - alveno
posttagmeze - E-kursoj prizorgotaj de ILEI
vespere - Interkona Vespere
- 04.11 vendrede antaŭtagmeze - malfermo de Azia
Kongreso kaj ISOA
posttagmeze - grupaj kunvenoj, unu el kiuj
estas pri E-instruado kaj ILEI prizorgos
vespere - Arta Vespere
- 05.11 sabate antaŭtagmeze - grupaj kunvenoj
posttagmeze - ekskurso
vespere - libere
- 06.11 dimanĉe antaŭtagmeze - diskutoj
posttagmeze - vizito al muzeo
vespere - Nacia Vespere
- 07.11 lunde fermo

Ni bezonas kelkajn prelegantojn, kiuj parolos pri ĉi-foja seminaria temo “Lerni Esperanton per modernaj metodoj” kaj montros modelinstruadon dum grupaj kunvenoj. Se vi havas intereson, bonvolu sinanonci al mi. Vian manuskripton pri la temo Arko aperigos sur la kongresa libro, kaj la limdato estas la 30-a de septembro.

ISIKAWA Tiekō

★Mi dankas al vi ĉiuj pro ke vi renovigis vian membrecon de ILEI por 2016.

ENHAVO

- 1……La 5-a ISOA
- 2……エスペラント作
文指導で思うこと
(石川智恵子)
- 3……「エスペラントは
『誰にでも』話せる
ようになる」という
のは本当か？
(石川一也)
- 5……エスペラント読
書相撲へのおさそい
(ほりやすお)
- 10……P V Z を読破し
ました(ほりやすお)
- 11……Internacia
Esperanto-Sumoo
- 13……anoncoj

エスペラント作文指導で思うこと

—主に西日暮里エスペラントクラブでの経験から—

石川 智恵子

東京の西日暮里エスペラントクラブの中級 2 クラスで、作文指導を始めてから 10 年になります。私にそのような資格があるのだろうかと思いつつ、多くの人が自分の言いたいことをある程度まで言えるレベルにもっていきたいと思いました。

エスペラントは、書くことと話すことの表現方法に大きな隔たりはないと言われていきますから、書ければ話せるということになります。中級クラスで会話指導をするよりも前に、書く方を重視した内容のクラスにしました。

毎月あるテーマに沿った作文を7問宿題にし、翌月添削して返却しながら、作文例とコメントをクラスで配って、さらに必要があればその場で発展的な解説もします。ある月の課題文を例にとります。

- ① 中国での日本の本の人気について、私は最近おもしろい話を聞きました。
- ② 中国で 100 万部以上売れた日本語から中国語に訳された本が2冊あります。
- ③ どんな本だと思いますか？
- ④ まずは村上春樹の小説(複数)で、このことはたぶんあなたも想像できるのではないでしょう。
- ⑤ もう一つについては、きっと思いもつかないと思いますが、山岡壮八の大著『徳川家康』だそうです。
- ⑥ なぜだと思いますか？それは、翻訳がすごくよくて、多くの中国人が自国の文学作品、例えば『三国志』(“Romano pri la tri regnoj”)を読んでいるように感じるからだそうです。
- ⑦ いかに読者を気持ちよく読ませることができかが、広くよまれるかどうかのポイントでしょう。

テーマとしては、自分でもだれかと話したくなるようなものを選びます。上記例はそうでもありませんが、時事的な話題も多く扱い、単語を探す苦労を感じる人が多いようです。

毎回繰り返し出てくる表現、たとえば「～だそうです」などは、大体の人が定型の言い方で書いていますが、「～だそうです」の内容の話となると、接続詞の使い方や、ke 以下の文章で主語が抜けたり、動詞の時制がおかしかったりということがよくあります。

一般的に言えるのは、動詞とそれに続く目的語の組み合わせに違和感のあるケース、すなわちコロケーションの問題があります。①の、「おもしろい話を聞きました」を、*aŭdi interesan informon* とした人がありました。*aŭdi* の対象は、原則として音で聞く、聞いて知るもの、のことであり、*informo* の中にはそのようにして得る場合はもちろんあります。しかし、語と語の間に見られる慣習的なつながりからいくと、*aŭdi informon* というのは違和感がある、という説明をしました。ある単語と一緒に使われやすい単語を知って文章を書けば、より理解されやすいということが言えます。

「どんな本だと思いますか？」を *Kiajn librojn vi supozas?* と書いた人が多いですが、*kia* とすると外見を問う意味が強く、数ある中のどの本、という意味では *kiu* がふさわしいと解説しましたが、*kiu* については、私も正直なところ、ヨーロッパ人の使い方にとまどいを覚えることがあります。自己紹介のページで、*Kiu estas via nomo?* という表現がありました。キリスト教文化圏でこどもに名前をつけるとき、いわゆる聖人の名前をつけるケースが多いため、どの聖人の名前？という意味で、*kiu* とするのかな、というのが私の理解ですが、確信はありません。いつか著者に聞いてみようと思います。

似たようなケースとして、「なぜだと思いますか？」

を Kial vi pensas? とした人が何人もいました。それだと、なぜあなたは思いますか、という変な表現になります。この文脈では、「なぜか理由がわかりますか」という意味なので、Ĉu vi scias kial? とするのがよいでしょう。こういう例からもわかるように、作文の際に目に入る日本語の単語とエスペラントの単語を入れ替えただけで、全体の意味を考えない作文がよくあります。

中級レベルなら、関係詞と分詞もきちんと使えるようにしたいものです。それらを使えば、文章がだいぶすっきりしますが、なかなか使いこなせない人が多いようです。

さらに、二つのものが話題になっている場合の unu と la alia の使い方や、内容のある事柄を「それ」と表現した場合に tio としないで gi を使うなど、注意すべき点はまだまだあります。動詞不定形の使い方も、もっと学んでほしい……。

しかし、長い間繰り返し作文指導をしているうちに、文章力が上がっていることが実感させられる

ことが多々あります。ほんとうなら、自分が日本語で言いたいことを、エスペラントでも自由に言えるようになるのが目標ですが、自由作文を書いてもらうと、8人もの添削をするのはとてもたいへんなことで、毎月時間がとれません。そこで、日本語部分はいつも私が課題文を与えることになりましたが、同じ日本語に対して、こんなにいろいろな表現が考えられるのかと驚くほど、バラエティー豊かな作文が集まります。各人の個性がにじんでいて、添削をしながら納得したりしています。

木村護郎さんが、エスペラントを教える立場の人間は、ヨーロッパの規範に縛られ過ぎないで、エスペラントの原則を守りつつ、私たちがもっと自由なアジア的表現(?)を使うのを奨励するのがいいと書いています。一方でコロケーションに気を配るように指導しながら、もう一方では、分かりやすいのであれば必ずしも規範に捕らわれることはないですよ、と指導するのはけっこう難しいことですが、ケースバイケースでやるしかないのかなと思っています。

(2016年4月4日)



「エスペラントは『誰にでも』話せるようになる」 というのは本当か？

掛川市 石川一也

4年ほど前のことです。地域の名称通り「郷土新聞」に、掛川エスペラント会での学習の様子の写真が小さな記事となったことがあります。今まで、エスペラントの宣伝は、口コミが一番と心得ていたもので、あまり期待していなかったのですが、なんと一人の方が、学習したいと電話をくれたのです。

自営業の主婦、60歳ということでした。一週間に一度、夕方1時間半ということで指導を始めました。始めてすぐ分かったことは、彼女は、「英語の学力がほぼゼロに等しい」ということです。

聞いてみると、中学のときはさっぱり勉強しなかった、とのことで、これは英語に限らないことだったようですが、特に、英語は、全く勉強しなかった、ということでした。そんなことがあるはずはない、と思ったのですが、教えているうちに、これは本当のことらしいということが次第に分かってきました。

一方、彼女は、オカリナの演奏が得意で大勢の前での演奏もするほどの腕前でした。オカリナは、15年かけて今の力になった、と言っていました。

このことから、彼女は、いわゆる「頑張り屋」だと想像できました。

これなら、なんとかものになるのではないか、と思いました。

指導を始めてみると、やはり、知らないことが多すぎることが分かりました。例えば、「Bela floro の bela は「形容詞」で floro という「名詞」を形容する言葉です。形容詞の「語尾」は、a ということを覚えてください。」と話した時の彼女の反応は、「形容詞って何ですか？」ということでした。「じゃあ、形容する、というのも分からないのですね？」と聞くと、そうだと仰うのです。「形容する、というのは、次の名詞、この場合は、floro の状態を説明する、という意味です。だから、その品詞を形容詞というのです。」

さらに、語尾、品詞ということもはっきりとは分かっていないことが判明しました。

エスペラントの指導をするとき、文法用語は極力使わない、使うとしても、なるべく簡単な表現とする、ということを心がけているのですが、最低限、必要な用語(この場合、「形容詞」「語尾」「品詞」)は、使う方が便利だと思っています。ところが、彼女の場合、こういう最低限の言葉も知らないのです。そこから教えていかなければなりませんでした。

嘘のような本当の話です。

考えてみると、普段普通に暮らしている人間にとって、それらの言葉は、不要な言葉であって、知らなくても当たり前かもしれません。そういう人たちでも、外国語を身につけたい、「エスペラントを身につけたい」という夢を持っているかもしれません。

彼女は、好奇心は旺盛なので、やる気充分でした。とても熱心なのです。分からないことは、すぐ、必ず質問しました。学習した文を書いた紙を家中に張って、暗記もしました。「学力」を知識だけでなく、そういう学習態度も「学力」のうちだ、ととらえると、彼女には、そういう「学力」は、十分あります。

オカリナがあれほど上手に吹けるようになったのも、長年、その頑張りで続けてきたからこそと思い、これなら、エスペラントもなんとか・・・と期待を持ちました。

ところが、一週間に一度というのは、彼女の場合、とうてい無理なことで、教えたことは、次週になるとすっかり忘れていくということが多かったのです。

しかし、考えてみると、言語の学習に「一週間に一度」というのは、エスペラントの場合、例えば、英語の力が土台としてある、とか、その一週間の間に自分で復習ができるなどの場合でないと、(忙しい主婦の場合など)一般的には、「無理」ということが言えるかかもしれません。彼女の場合も、そう考えました。指導を始めてから 2 年が過ぎていたときのことです。

そこで、JEI の R.O.の今年の 7 月号に書いたように、「一日おきに学習する」「隔日学習」にすることにしました。ちょうど彼女は、パソコンでスカイプも使えるので、Skype を使って月水金の夕方 8 時から 30 分程度、ということに変更しました。

やはり、これは効果的でした。次第に彼女の「知っている単語数」が増えてきました。教えたことも忘れることが少なくなり、彼女自身も「なんか、この頃、エスペラントが分かるようになってきたみたい。」という結果になりました。

こうした結果からみると、彼女が英語の勉強をしなかった、というのは、彼女だけの問題でなく、むしろ、指導者の指導方法に問題があったのではないか、と言いたいのです。

つまり、言語を指導するとき、例えば、中学校で 40 名もの生徒を一斉に指導するのは、もともと無理があって、指導者の力というより、そういう状況で言語の指導をするという体制に問題がある、と言えます。

わたしは、以前からエスペラントを教えるときは、2~3 名を対象とするのが理想的、という意見を持って実践してきました。(その人数だと、お互いが学び合うということもあり、一名は、あまり適当でないと考えます。)

さいわい、というべきか、最近は、昔と異なり、大勢を一斉に指導することもないので、いらぬ心配かもしれません。

しかし、彼女を指導していると、彼女に、何が分

からなくてつまづいているのかが、一対一での指導のため、こちらによく分かる、という点ではよかった、と言えます。彼女のような方の場合、大勢の中での指導は、とうてい無理なことと言えます。(でも、そういう人が多いのではないかとも思います。)

「エスペランティストを増やすには」という分科会に出たこともあります、まずは、エスペラントの存在を知らせることから考えるべきでしょう。また、エスペラントを独学で学ぶことのできる材料を Web 上におくとか、の研究と実践が必要でしょう。

しかし、エスペラントは簡単だから、自分でその気になれば、身につけることがあるので、別に教えなくても、エスペランティストは増えていく、と考えるのは、どういものかなあ、と疑問視します。

一人が一人を手とり足とり教えていく、という地道な努力をしているエスペランティストが、どのくらい我が国には居るのか知りたいと思います。また、そういうエスペランティスト同士が、連絡を取り合っ、励ましあい学びあっていく組織も必要ではないかと思います。

表題と内容が異なるようなことになってしまいましたが、「エスペラントを学びたい」という希望を持った人には、あくまでも指導を続ける人がいなければ、

「誰にでも」エスペラントは話せるようになる、とは言い切れないでしょう。それとも、エスペラントは、ひとにぎりのエリートだけに身につけてもらえばよい、とお考えでしょうか？

少し余談になりますが、エスペラントを指導するときに、単にエスペラントを教えるだけでなく、将来その相手が誰かにエスペラントを教える人になってほしい、と願いつつ指導する構えも必要ではないでしょうか？

となると、例えば、自分で学習する方法の指導も必要です。教えながら、例えば、「日本語エスペラント語辞典」をできるだけ開いて、読む、という方法とか、「音読」を重視するとか、Skype で外国人との会話を実地するとか、こういうことを指導の中に入れて、誰かに教えるときには、このようなことを教えていってほしいと伝えます。

まとまりませんが、わたしの実践の一端を書かせていただきました。

読んでいただいたことを感謝します。

Kapao イシカワカズヤ



エスペラント読書相撲へのおさそい

エスペラント読書相撲協会会長 ほりやすお

家に居ながら世界につながり、学力向上するエスペラント読書相撲に参加しませんか。

詳しい情報は <http://www.esperanto-sumoo.strefa.pl/index.html>

多くのエスペランティストの本を読まない現状

私は JEI に行ったときには、まあ、義務のように本を買う。帰りの電車の中でちょっと読み始めるが、すぐ眠くなって、本もそのまま家で、読まれないまま

で眠ってしまう。本もかわいそうだが、自分の実力も上がらない。世の中には「eterna esperantisto」と悲しそうに自己紹介をする人がたくさんいる。こんな状態を何とか打破しなければ運動は盛んにならない。

こんなとき、ある中学の先生の「英単語相撲」という実践を思い出した。豆テストをするが、英語が不得意な子どもは、やっぱりやる気を出さない。そこで、それぞれに何点取るかという目標を出させ、それを超えたら○、超えなかったら●ということにした。出来ない子どもは、「1点取る」が目標でも良く、1点取れば○がもらえる。こうすることで、出来る子、出来ない子にかかわらず勝負になり、しかも目標は自分で設定したものだから、●は自分との約束が守れなかった、ということになり、批判は自分に向くことになる。この相撲は成功し、当時の人気だった小錦から、色紙も来たそうだ。

これをエスペラントに応用したのが「エスペラント読書相撲」である。

エスペラント読書相撲は自分との戦い

エスペラント相撲では、参加者は、どの本を毎日何ページ読むかを申告する。相撲が始まり、その日に読めれば○、読めなければ●である。初心

者は童話の1ページでも良い。ベテランで年金生活者は難しい本で20ページなど、自分の実力、環境にあった目標を設定する。この相撲は、相手と戦うのではなく、自分と戦うのだ。自分が約束したことをきちんと守れるかどうか、勝負の分かれ目である。そして、初心者でもベテランでも同じ土俵で、勝敗を競うことになる。まさに画期的な発想である。「年間1000ページ読む」などという目標と違って、これなら初心者も参加できる。期間は本当の相撲の開催期間と同じに(原則的には)設定した。だから奇数月で年に6場所、合計90日闘うことになる。

国際化し広まるエスペラント読書相撲

第1回からの概要は次の通り。4回目からは外国人にも呼びかけて、国際場所になった。

第1回	2009年9月場所	参加者	18人	(日本人18)
第2回	2009年11月場所	参加者	18人	(日本人18)
第3回	2010年1月場所	参加者	23人	(日本人23)
第4回	2010年3月場所	参加者	33人	(日本人25、9か国)
第5回	2010年5月場所	参加者	33人	(日本人26、7か国)
第6回	2010年7月場所	参加者	40人	(日本人33、5か国)
第7回	2010年9月場所	参加者	41人	(日本人26、10か国)
第8回	2010年11月場所	参加者	44人	(日本人29、10か国)
第9回	2011年1月場所	参加者	59人	(日本人27、13か国)

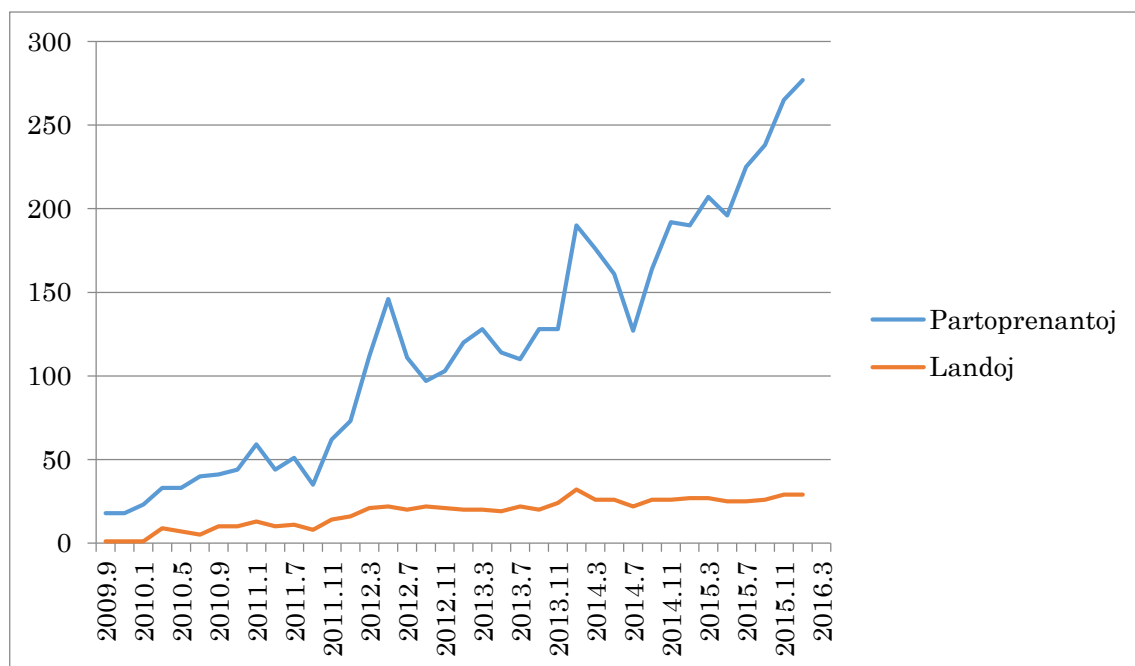
*3月場所は大地震のため中止

第10回	2011年5月場所	参加者	44人	(日本人29、10か国)
第11回	2011年7月場所	参加者	51人	(日本人31、11か国)
第12回	2011年9月場所	参加者	35人	(日本人21、8か国)
第13回	2011年11月場所	参加者	62人	(日本人32、14か国)
第14回	2012年1月場所	参加者	73人	(日本人34、16か国)
第15回	2012年3月場所	参加者	112人	(日本人45、21か国)
第16回	2012年5月場所	参加者	146人	(日本人48、22か国)
第17回	2012年7月場所	参加者	111人	(日本人47、20か国)
第18回	2012年9月場所	参加者	97人	(日本人30、22か国)
第19回	2012年11月場所	参加者	103人	(日本人34、21か国)

第20回	2013年1月場所	参加者	120人	(日本人49、20か国)
第21回	2013年3月場所	参加者	128人	(日本人49、20か国)
第22回	2013年5月場所	参加者	114人	(日本人49、19か国)
第23回	2013年7月場所	参加者	110人	(日本人43、22か国)
第24回	2013年9月場所	参加者	128人	(日本人49、20か国)
第25回	2013年11月場所	参加者	128人	(日本人50、24か国)
第26回	2014年1月場所	参加者	190人	(日本人52、32か国)
第27回	2014年3月場所	参加者	176人	(日本人46、26か国)
第28回	2014年5月場所	参加者	161人	(日本人45、26か国)
第29回	2014年7月場所	参加者	127人	(日本人40、22か国)
第30回	2014年9月場所	参加者	164人	(日本人50、26か国)
第31回	2014年11月場所	参加者	192人	(日本人46、26か国)
第32回	2015年1月場所	参加者	190人	(日本人49、27か国)
第33回	2015年3月場所	参加者	207人	(日本人46、27か国)
第34回	2015年5月場所	参加者	196人	(日本人52、25か国)
第35回	2015年7月場所	参加者	225人	(日本人47、25か国)
第36回	2015年9月場所	参加者	238人	(日本人49、26か国)
第37回	2015年11月場所	参加者	265人	(日本人52、29か国)
第38回	2016年1月場所	参加者	277人	(日本人53、29か国)

延べ参加者数 4480 人

2015 年になって、最初は 200 人前後であったが、後半になって参加者が増え、今年は 300 に届く勢いである。その理由は、参加者がこの相撲の良さ、意義を実感し始め、世界大会を始めとする様々な催しで相撲分科会を持ち始めたことによる。また口コミでの拡がりも大きい。



参加国の内訳

2016年1月場所の参加国は下の通りである。一番左の数字が2016年1月場所の参加者数。かっこの中は、右から、2015年3月、5月、7月、9月、11月

Japanio:	53 (52 - 49 - 47 - 52 - 46)
Koreio:	51 (44 - 34 - 32 - 8 - 5)
Francio:	36 (36 - 35 - 33 - 30 - 37)
Vjetnamio:	16 (16 - 18 - 21 - 23 - 25)
Pollando:	15 (16 - 17 - 16 - 14 - 16)
Nepalo:	13 (2 - 1 - 2 - 2 - 2)
Svisujo:	12 (11 - 12 - 1 - 4 - 12)
Brazilo:	9 (11 - 8 - 5 - 5 - 9)
Ĉinio:	9 (10 - 5 - 7 - 3 - 4)
Rusio:	8 (12 - 10 - 10 - 6 - 3)
Italio:	6 (6 - 7 - 6 - 6 - 5)
Finnlando:	5 (7 - 7 - 6 - 5 - 6)
Nederlando:	5 (7 - 4 - 6 - 6 - 6)
Danio:	5 (5 - 4 - 6 - 3 - 3)
Svedio:	5 (5 - 3 - 3 - 4 - 5)
Germanio:	5 (4 - 4 - 2 - 1 - 3)
Serbio:	4 (4 - 3 - 5 - 3 - 4)
Turkio:	4 (2 - 3 - 4 - 3 - 1)
Hispanio:	4 (1 - 4 - 4 - 1 - 2)
Britujo:	2 (2 - 2 - 1 - 0 - 0)
Usono:	2 (2 - 0 - 0 - 0 - 1)
Kanado:	1 (1 - 1 - 1 - 1 - 2)
Tajvano:	1 (1 - 1 - 1 - 1 - 1)
Barato:	1 (1 - 1 - 1 - 1 - 1)
Argentino:	1 (1 - 1 - 0 - 1 - 0)
Greki:	1 (1 - 0 - 1 - 1 - 1)
Hungario:	1 (1 - 1 - 1 - 1 - 1)
Kirgio:	1 (1 - 0 - 0 - 0 - 0)
Indonezio	1 (0 - 0 - 0 - 0 - 0)
Bulgario:	0 (3 - 3 - 3 - 2 - 2)

上位は、長く日本、フランス、ポーランド、ベトナムが占めてきたが、この2場所で韓国の台頭が著しい。韓国は2017年の世界大会を前に、会員の實力向上を目指していて、相撲をその一手段と考え薦めていることに寄る。それに比べ、日本は、ずっと50前後であり、3月場所では、韓国に抜かれる可能性がある。私はそれを阻止したいと、JE

Iや個人に訴えかけているが、反応ははかばかしくない。ILEIは相撲を公式に支持しているが、日本ILEIの役員は、松木さん以外の参加はない。そんなのでは困る。

大相撲効果

1. 学力の向上

一人では読めなかった本も、こうして期限を区切ることで、頑張っ読めるようになる。また、国際的な管理団がいて、エスペラントのメールの返事が来るので、エスペラントの交流にもなるし、同じ本をほかの国の人を読んでいるのを知ると共感もわいてくる。だから、読書が進むだけでなく、国際的な連帯もわくようになる。終わってからは、「お陰で、積ん読だった本が読めた」「自分は継続が苦手だったが、全勝できて自分をほめた」など、エスペラント読書の楽しみを発見したり、達成感を感じたりしている人が多い。第 100 回世界大会の「相撲分科会」で、あるフランス人が、相撲のおかげで著者と出会って新しい人生が開けた、とも話していたから、人生も変えるきっかけにもなっている。

2. エスペラント書籍文化への貢献

平均して一場所 15 日間で、一人が 70 ページ読む。2016 年 1 月場所では、277 人が参加したから、読んだ総ページ数は 20000 ページになる。これまでの相撲参加者の延べ数は、4480 人だから、読

んだ総ページ数は、313600 ページになる。眠っていた本は大喜び、書架で売られないままでさらされていた本も読まれて大喜び、著者や出版社は自分の本が読まれて大喜びである。この運動がどんどん進んで行ったら、エスペラント運動だけでなく、世界も変えるのではないだろうか。

運営も国際的、今後の夢は

300 人近い「力士」を管理するのは大変なので、現在は、私以外に、成績を管理する 8 人（日本人、ポーランド人、フランス人、セルビア人、ベトナム人、トルコ人、イタリア人、ネパール人）とホームページと賞状を管理するポーランド人 1 人の、国際協力でやっている。

今年中に 300 人の達成、後 2 年後には 500 人を目指している。そのためには、日本場所だけでなく、ポーランド場所、フランス場所、韓国場所など、世界中に数か所、興行主を組織する必要があり、それが課題である。

詳しい情報は

<http://www.esperanto-sumoo.strefa.pl/index.html>

ここには、これまでの歴史、規則、成績、各国の会報などに載った記事、読んだ本の感想、場所ごとに読まれた本の一覧、賞状の一

覧、参加者の顔写真などなど、豊かな内容になっている。

私の雑談

1. 私は、このすもう開始以来、38 場所連続全勝です。こういう人が何人かいる。「あの双葉山でさえ、私の前では威張れない」などと冗談を言っている。

2. 相撲が始まると、一日の仕事は、読書から始まる。提唱者が負けていては仕方がないので、絶対に負けないように気を配る。この 38 場所の間に、母の死もありましたが、その時も休むことはなかった。

3. お相撲さんの苦勞がわかる。15 日間は、ただ相撲を見ている分には、結構短い、やっている身には、長い。終わるとほっとする。お相撲さんも同じだろう。しかしお相撲さんは、終わっても稽古、稽古ですし、生活、人生がかかっているのが大変だ。読書相撲のほうは、負けたって何ということはないが、そういう気持ちは、人生の負けへの入り口なので、そうならないように気を引き締めている。

4. この相撲はインターネット時代のおかげである。インターネットがなければ、勝敗を

毎日のように報告して、お互いに励まし合う、などと言うことはできない。

5. エスペラント相撲のおかげで、いとうかんじさん編集の、50 数冊ある Plena Zamenhofa Verkaro(P V Z)を、2015 年末で、読破した。エスペラント相撲が無かったら、

こんな快挙は成し遂げられなかったろう。自分が考案したエスペラント相撲だが、その自分の創造性の豊かさ、継続して広める努力に、高い評価を与えたい。

次に、P V Z 完読の簡単な報告を添付する。

P V Z を読破しました ほりやすお

「ザメンホフの書いたものは何かありますか」と、愚かな質問をJEIの事務局の石野さんにしたのは、もう 30 年くらい前になるでしょうか。それまで、運動には全く参加しないで、地元で好きにやっていたので、エスペラントそのものについても全く知識がありませんでした。石野さんに紹介されたのが、Zamenhofa Verkaro という本でした。それを読んでちょっと知識が付きまして。

その後JEIの理事になりました。先輩理事の東海林敬子さんから、「理事なんだから Plena Verkaro de Zamenhof(PVZ)を持ってなければダメよ」と言われ、PVZ全巻を買いました。東海林さんがその保管の担当をしていたのでした。確か20万円位したと思います。黒い表紙の厚い本がどさっと大量に送られてきました。すごいのがきたなあ、と思いましたが、当時は働いていたこともあり、一応書棚を空けて並べたものの、それから10年は過ぎました。

仕事も辞め暇も少し出来ました。エスペランティストとして、このまま死んであの世に行ってザメンホフさんに「よくやった」とほめられるかなあ、と思った時に、PVZが目に入りました。こいつを全部読んでからあの世に行きたいな、そうすれば、ザメンホフさんにもほめてもらえるかもしれない、そう思いました。そして、カタログに沿って本を並べてみました。黒いカバーの本と、黄金色のカバーの本と2種類、全部で52巻ありました。

2009年11月から、エスペラント大相撲を開催し始めました。この「相撲」は大相撲の期間に合わせて、選んだ本を一日につき何ページ以上読

むかを決めて、それが読めれば白星一つ、という私が考案した相撲です。この第一回エスペラント相撲には、私は「Ŝtona Urbo を20ページ読む」と宣言して参加しています。2010年初場所には、ザメンホフに関心が向いたのか「Fundamenta Krestomatio de la Lingvo Esperanto20ページ」で参加しています。3月場所に初めて「Plena Verkaro de Zamenhof 20 paĝoj」で取り組み始めました。それから延々と大相撲とともに読み続け、本日2015年12月23日、ついに52巻の全巻を読み終わりました。6年間かかったこととなります。エスペラント大相撲がなければ読み切れなかったことでしょう。自分で考案したとはいえ、実に素敵な発明でした。万々歳です。

この6年間で思ったのは、第一に、ザメンホフさんは本当に偉大だということです。エスペラントを作り上げ、初期には「エスペラントの改造」をあちこちから持ちかけられ、それに対応するかに見せながら、結果的にはこれをはねのけ、エスペラントの基礎を固めました。多くの翻訳もし、自分でも創作し、エスペラントの内実を充実させました。同時に、ヨーロッパじゅうから来る本の注文などに対応して発送や会計処理までしています。今のよう通信状況がない中で、よくもそんなことまでやり遂げられたものだと思います。それだけでなく、エスペラントの更に上を行くホマラニスモの実現にまで努力するのですからとても人間業とは思えません。

次に思ったのは、この全集を編纂したいとうかんじさんという人もまた尋常な人ではないというこ

とです。全集では、各巻の終わりの「あとがき」で、収録したものの解説をしているだけなので、いとうさんがなぜこの全集を作ろうとしたのかは明確ではありません。当初は、外国のザメンホフ研究者もばかにしていたようですが、いとうさんの仕事に次第に賛同して、資料収集に協力しています。いとうさんは、それらに目を通して、「これに関連した資料は、あの巻の何ページを見ろ」などと注釈をつけています。この膨大な資料をどのように整理していたのか、信じられないようなことです。この厚い本を52冊も出すエネルギー、あるいは資金集めなど、神業としか言いようがありません。また、資料を利用して、日本語で分厚い7巻の「ザメンホフ」という本まで出しているのですから、作家としても並々ならぬ力量です。今は、私はこれに取り掛かっています。その他にも「ザメンホフ余滴」「PVZへの招待」もあるので、もう少しいとうさんと付き合っただけでゆーく楽しみが残っています。

いとうかんじさんは、全集の資料全部に目を通

したでしょう。それだけでなく、研究もしています。私は、読み飛ばしただけですが、とにかく読破しました。藤本達生さんは、いとうさんの片腕であったようですから、全巻読んだかもしれません。その他、著名な協力者は読んだかもしれませんが、読破した人はこれまで世界に10人いないのではないかと思います。その中に入れたのですから、本当に満足感でいっぱいです。これであの世で、ザメンホフさんといとうかんじさんと、お付き合いができるかなという思いです。

しかし、これに満足してはいけません。読破は、人の後追いです。私の仕事は、現在18巻目まで出た「Raportoj el Japanio」をできるだけ長く出し続けること、震災支援もかねて「世界の旅人堀さんのエスペラント気ままエッセー」を、釜石市唐丹の子ども支援の終わる2020年まで出し続けることです。それらを成し遂げて、あの世でお二人に会いたいものだと思います。

Internacia Esperanto-Sumoo

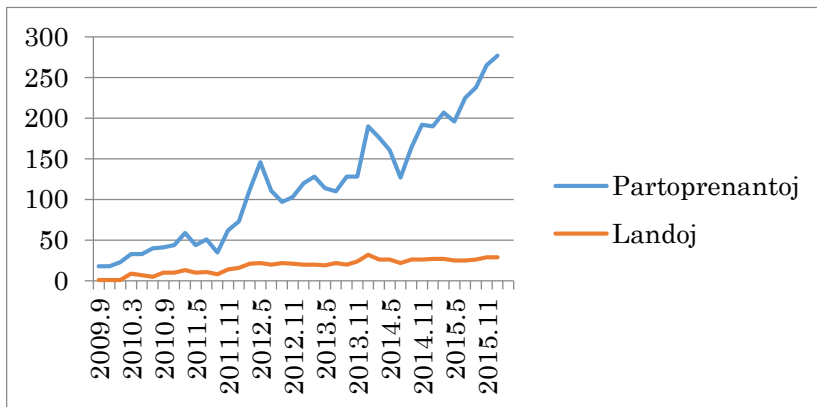
Kio estas Sumoo?

Sumoo estas japana tradicia luktoarto, kiu okazas 6 fojojn en neparaj monatoj ĉiun jaron. Ĝi estas tre populara inter japanoj kaj dum la konkurso oni televidas ĝin 3 horojn ĉiun tagon.

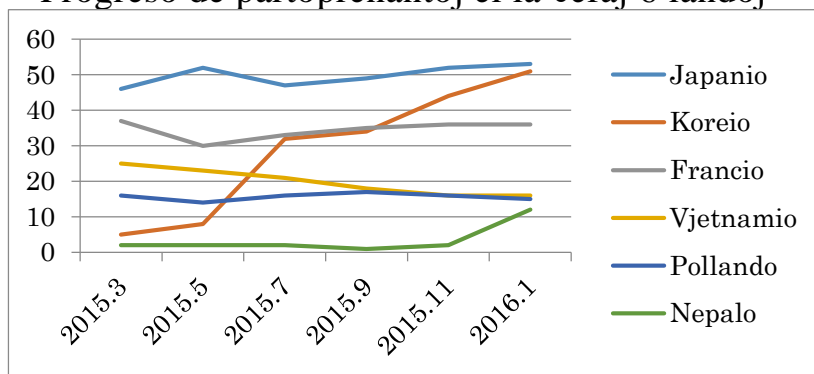
Progreso de la Internacia Esperanto-Sumoo

La Internacia Esperanto-*Sumoo* estis iniciatita de s-ro HORI Jasuo (Japanio) en septembro 2009. Komence li prove okazigis ĝin nur por japanoj, sed konstatinte, ke ĝi estas tre utila por ĉiuj esperantistoj, li okazigis ĝin internacie en marto 2010. Poste 6 fojojn

ĉiujn jaron krom en marto 2011 pro la Japana Katastrofo, ĝi okazas en la sama periodo kiel la vera *Sumoo*, kaj en januaro 2016 ĝi atingis la 38-an konkurson kun la partopreno de 277 homoj el 29 landoj. Vi vidu progreson de la *Sumoo* en la suba diagramo:



Progreso de partoprenantoj el la ĉefaj 6 landoj



Kiel oni “luktas” en Esperanto-*Sumoo*?

Partoprenantoj decidas, kiun libron kaj kiom da paĝoj tage ili legos, kaj tiun informon ili sendas al s-ro Hori, kaj li faras liston de la partoprenantoj.

Kiam komenciĝas *Sumoo*-konkurso, ili eklegas la libron. Kiam ili legas pli ol la promesitan kvanton en la

unua tago, ili akiras unu venkon en tiu tago, kaj tiamaniere ili legadas 15 tagojn. La partoprenantoj luktadas 15 tagojn ne kontraŭ aliaj partoprenantoj, sed kontraŭ sia promeso, alivorte kontraŭ sia maldiligenteco.

Kiel kontribuas Esperanto-*Sumoo* al la movado

Dum 15 tagoj averaĝe unu partoprenanto legas 70 paĝojn. En januaro 2016, la nombro de la partoprenantoj estis 277, do ili entute legis pli ol 19390 paĝojn. Dum la pasintaj 7 jaroj 4480 homoj partoprenis, do ili legis entute 313600 paĝojn, egale al 1568 libroj kun 200 paĝoj.

Antaŭe tiuj legitaj libroj longe kuŝis en la libroŝrankoj hejme aŭ en Libro servo de UEA, sed ili vekigis. Ili

certe estas ĝojaj. Libro servo de UEA kaj landaj asocioj estas ĝojaj, kaj verkistoj kaj eldonistoj estas ĝojaj. Ĉiuj estas ĝojaj. Tiamaniere la *Sumoo* multe kontribuas al librovendado kaj librokulturo.

Partoprenantoj estas ĝojaj. Ili povis legi dormintajn librojn, ĝuis legadon kune kun partoprenantoj en la tuta mondo, plialtigis sian kapablon kaj kiam ili finis la konkurson kun 15

venkoj kaj ricevis diplomon, ili estas fieraj. Certe tiu *Sumoo* estas la plej granda legmovado ne nur en la

Esperanto-historio, sed ankaŭ en la monda historio, dank' al la progreso de interreto en la tuta mondo.

Kiel oni organizas la *Sumoo*-n?

Nun la partoprenantoj estas preskaŭ 300, do unu homo ne povas administri ĝin. Ni havas internacian teamon. 9 homoj el Japanio, Turkio, Serbio, Pollando, Italio, Vjetnamio, Francio kaj Nepalo laboras, ricevante rezultojn de siaj prizorgatoj, farante statistikon pri la legitaj libroj kaj respondecante pri la

retejo kaj diplomoj.

En novembro 2014 la estraro de la Internacia Ligo de Esperantistaj Instruistoj (ILEI) decidis agnoski kaj morale apogi la Esperanto-*Sumoo*-n, ĉar tiu agado bonege kongruas kun la celoj de ILEI.

Kion la *Sumoo* celas en estonteco?

En 2016 la nombro de partoprenantoj estu pli ol 300 kaj en du jaroj ĝi estu 500. Kiam partoprenos 500 homoj el la tuta mondo, Esperanto-movado

kvante kaj kvalite draste ŝanĝiĝos. Per la Internacia Esperanto-*Sumoo* ni volas ŝanĝi la movadon kaj la mondon.

Pri detalaj informo vidu la suaban retejon.

En ĝi estas “Rezultoj ĝis nun”, “Regularo”, “Historio”, “Opinioj”, “Listo de legitaj libroj”, “Recenzoj”, “Diplomoj” ktp.

<http://www.esperanto-sumoo.strefa.pl/index.html>

☆ **LUCERNO** に原稿をお寄せ下さい。

☆ 会員相互の意見交換や情報交換に ILEJ-JP のメーリングリストをご活用ください。

llej-jp ホームページ <http://ilei.jp>

ILEJ-JP メーリングリスト ileijp@googlegroups.com

ILEI-JP 代表 石川 智恵子 sksanjo@ff.e-mansion.com

ILEI-JP 機関誌編集 helpis 木谷 奉子 kitanitomoko5@gmail.com
amiko.mia@gmail.com
belmonto